

平成24年（2012）年度 大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業
報告書

福島県喜多方市 高郷町小土山集落



法政大学現代福祉学部岡崎昌之ゼミナール

目次

I はじめに

1. ゼミ概要
2. 地域概要
3. 調査実施者
4. 活動スケジュール

II 2012年度活動内容

1. 顔合わせ（7月30日）
2. 第1回調査（9月3日～5日）
3. 第2回調査（10月20日～21日）
4. 地域づくりオープンカフェ（12月21日）
5. 第3回調査（2月1日～3日）

III 今後に向けて

1. 盆踊りの復活
2. 小土山の魅力発信
3. 堤マップの作成
4. 富士山の活用

IV おわりに

謝辞

I はじめに

1.ゼミ概要

私たち法政大学岡崎ゼミナールは、主に農山村や中山間地域の地域づくりについて学んでいる。国内外において、具体的にどのようなまちづくりが展開しているのか、その実態を把握し、各自またはグループで、特定地域のまちづくりについて、文献、資料等を参考に、より詳細に調査をおこない、さらにそれらの地域へ積極的に足を運んでいる。

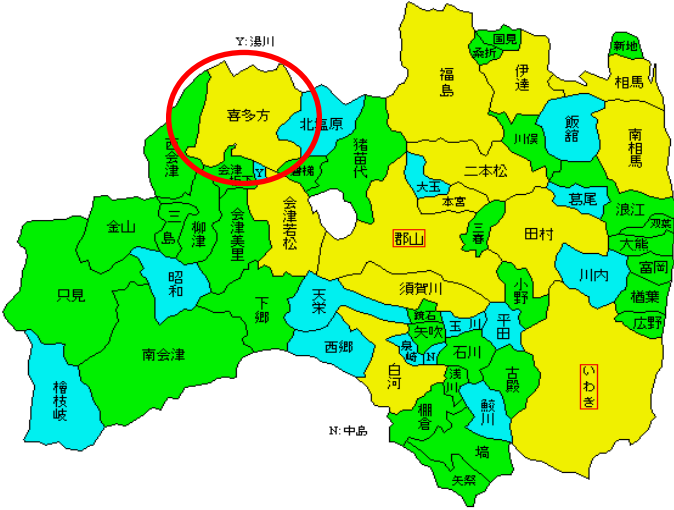
本年度は、8月に被災地支援という目的でスタディツアーを企画し、学部の約50名とともに岩手県遠野市と釜石市で活動を行った。また本事業では、年間4回の訪問をしながら、地域の方の地元に対する思いを伺ったり、2月には雪かきボランティアを通じて冬の生活実態調査を行った。このように、ゼミ内でも複数のプロジェクトが動いており、学生自らが積極的に現地で活動している。

2. 調査地域概要

(1) 位置

小土山集落は、高郷町の北東に位置し、標高約300m、喜多方市高郷総合支所から約9km。県道「上郷・下野尻線」が集落内を通り西会津町小清水集落に通じる。山間部に位置していたため、かつては農業のほか製炭、出稼ぎによる屋根葺、廻米の運送や峠道の中迫馬による駄賃稼などにも従事していた。応永年間には小土山十郎の居館を設けたと伝えられていることから、集落の歴史は600年以上になると推定される。高齢化率は、39.4%、50～60代の担い手が多くいる。集落営農により生産意欲を高めてきたほか、中山間地域等直接支払制度の活用により中山間地域の多面的機能の維持に努めてきた。集落は、「早坂」「新田」「立岩」の3箇所からなり、集落の南面に棚田状の圃場が広がる。磐梯山の眺望が良く(地域名「磐見」の由来)、写真愛好家の来村も多い。今年度は「富士山(標高508.8m)」の登山道整備に着手するなど、集落活性化の気運が高まっている。外部の力と共に集落の活性化策を考えてゆくことについて集落での合意がなされた。

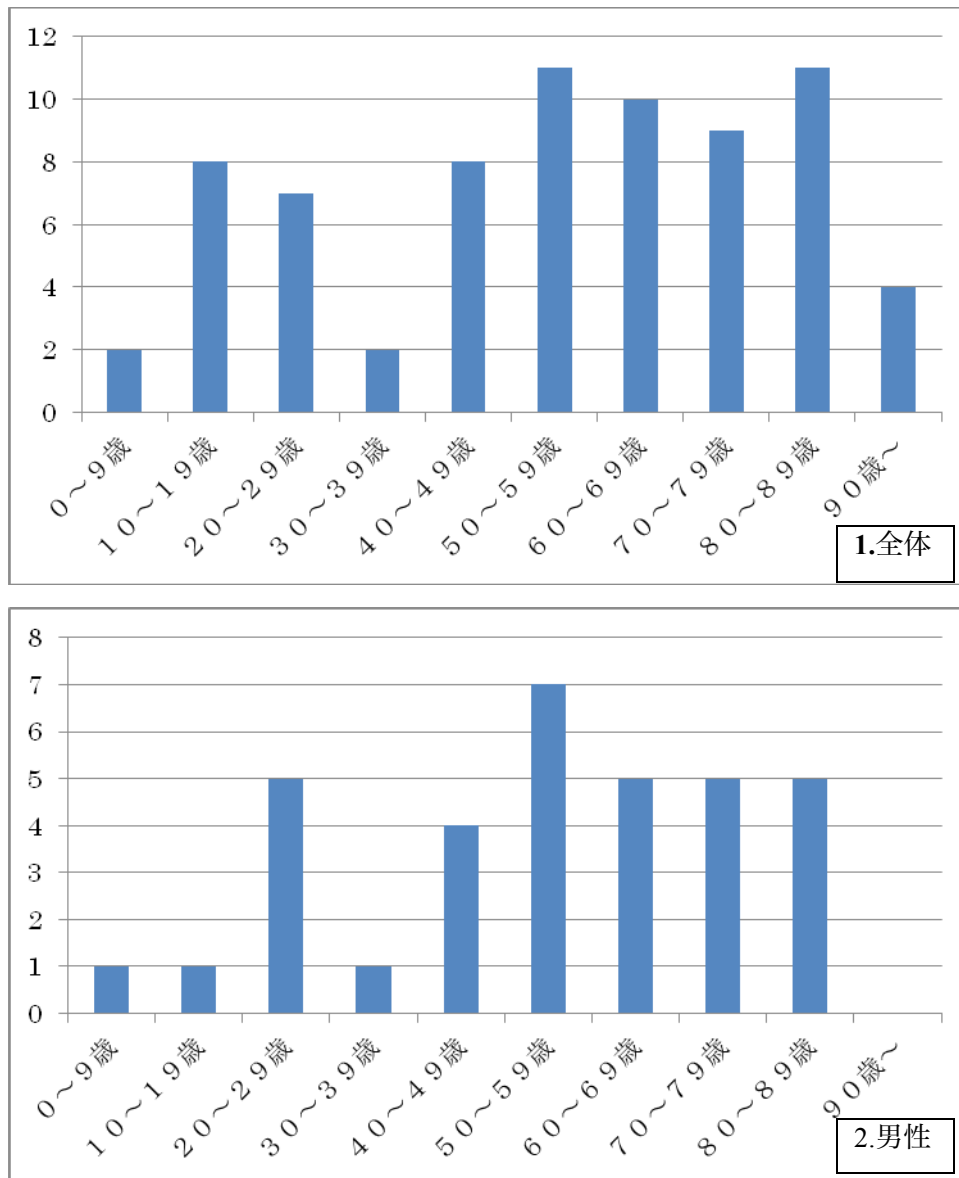
小土山行政区航空写真

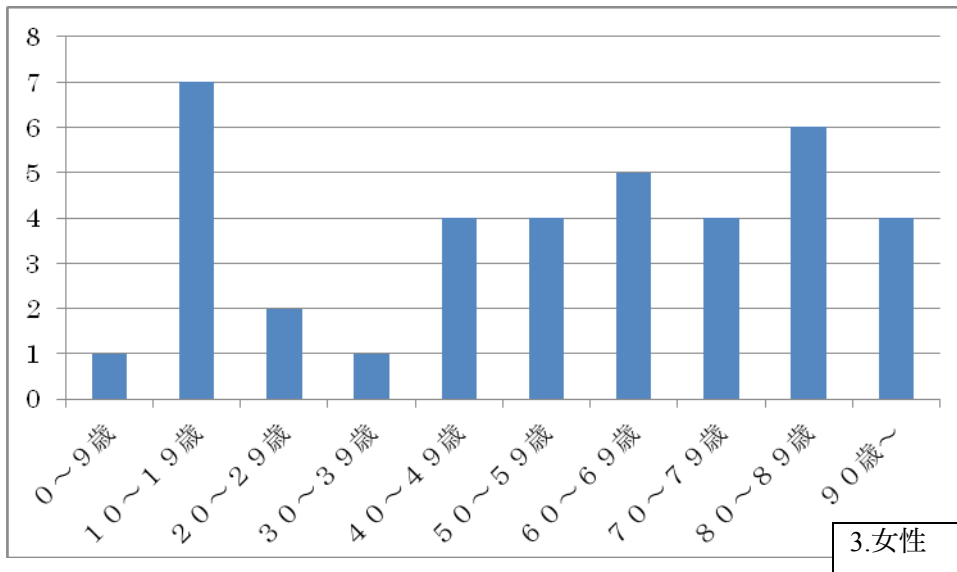


(2) 世帯数

小土山集落は、2013年現在、21戸の世帯数があり、71人が住む。男女別では男性37人、女性34人となっている。高齢化率は39.4%と高い。65歳以上の住民の割合が全体の半数に近づいており、今後「限界集落」になる可能性がある。10代～30代の若年層が少なく、50代以上の高齢者層が集落を担っている。

図 小土山集落 人口構成 1、2、3





2.基本データ

(1) 調査実施者

ゼミ名	法政大学岡崎ゼミナール
ゼミ代表者	榊絵美
ゼミ生 (2、3、4、M1)	2年生：秋葉剛、影山卓也、田辺愛 3年生：榊絵美、川崎志帆、宮内絵理、山地克毅 4年生：室岡康平 M1：小林創
指導教員名	岡崎昌之 (法政大学現代福祉学部)
調査対象集落名	福島県喜多方市高郷町小土山

平成24年（2012）度の事業内容

日付	名称	内容
7月30日	顔合わせ	現地で顔合わせ兼今後の調査の打ち合わせ
9月1日	第1回調査	午後 集落内散策 夜 交流会
2日		終日 ヒアリング調査 夜 カラオケ大会
3日		午前 意見交換会 午後 次回調査の打ち合わせ
10月20日	第2回調査	夜 ほろよい談話会
21日		午前 集落内散策 午後 ミニ報告会
11月23日	集落内中間報告会	収穫祭の日にあわせ本事業役員の佐藤さんが報告
12月22日	福島県中間報告会 地域づくりオープンカフェ	本事業の調査を行う学生グループが福島市内にて報告会を行う。
2013年2月1日	第3回調査	今回の調査に関する打ち合わせ
2日		終日 雪かきボランティア 夜 交流会
3日		ミニ報告会。 来年度の事業の引継ぎ

II 活動内容

私たちは7月に顔合わせのため初訪問、9月に第1回調査、10月に第2回調査、12月に地域づくりオープンカフェ、そして2月に第3回調査と5回福島に訪問した。調査方法は主にヒアリングで、集落に住む人の生の声を集めた。

1. 顔合わせ

7月30日、学生5名と教授1名で初めて小土山地区へ訪問。集落の方との初顔合わせ、今後の調査内容についての打ち合わせを行った。



写真1 顔合わせ時の集合写真

2. 第1回調査

9月3日～5日、第1回調査を行う。1日目に集落の方との交流会を行い、2日目は終日ヒアリング調査を行った。夜は集落の方のお宅に御呼ばれをいただいて、カラオケ大会を行った。3日目は集落の方との意見交換会を行い、調査終了。

調査方法は、事前に集落の方へ郵送したアンケート（別添資料）による調査と、許可を頂いた集落の方のお宅へ伺うヒアリング調査。A班（室岡、宮内、川崎）とB班（小林、榊、影山）に分かれて、A班は立岩地区、B班は早坂地区と新田地区を担当し、計7件のお宅に伺った。平日だったこともあり、協力して下さった集落の方の年齢は60代以上の方がほとんどであった。



写真2 ヒアリング調査の様子（左） 写真3 交流会の集合写真（右）

意見交換会

3日目までに私たちが集落の方からいただいた情報をもとに、模造紙に「昔」「今」「これから」を縦の軸として、集落の魅力を「産業」「行事」「人」「自慢」「食」の5つに分けたものを横の軸として分け表にした。ヒアリング調査時のA班はピンク色、B班は黄色、集落の課題点と感じたものは青色、この意見交換会で集落の方から新たに出た意見は緑色のそれぞれ付箋を表に貼った。

写真4 小土山のみなさんの声



ヒアリング調査結果

- ・ 外出の際は身内に迎えをたのんでいる
- ・ 青年会が行事の主催などを中心に活動していたが人口の減少に伴って消滅してしまった。
- ・ 昔は盆踊りやカラオケ大会、映画などを見て楽しかった。
- ・ 棚田の草刈が大変である。
- ・ 昭和49年～59年まで養蚕を行っているところが6件あり、喜多方市に出荷していた。
- ・ 呼び呼ばれを行っていた
- ・ 1月14日に団子さしという行事を行っていた。
- ・ 盆踊りでは会津磐梯山を踊っていた
- ・ 4月13日に宮祭りがある
- ・ 昭和30年ごろ丸一神楽が6～7人来ていた。対価はお米だった。
- ・ みんな仲が良い
- ・ 個人で稲荷大社を持っている家が多いため犬が飼えない。
- ・ 笹餅（笹でお餅を包んだもの）
- ・ 磐梯山が見えることが自慢である。
- ・ 道が以前よりも整備された。

- ・ えご（海藻を材料にした寒天）
- ・ 芋床（ジャガイモをつぶし漬物の糠にする）
- ・ 1月15日に才の神を行う（かやや札を燃やす）
- ・ 今のままでも十分に満足している。
- ・ 自然などありきたりなものではなく小土山にしかないものを探している。
- ・ 冬の小土山をぜひ見に来て欲しい。
- ・ 堤という棚田に水を引くためのため池が十数か所存在
- ・ 富士山という名前の山（西会津との境界）

写真5 意見交換会の様子



写真6 カラオケ大会

3. 第2回調査

10月20日～21日、第2回調査を行う。目的は、9月の調査の時にはいなかった若い方からの意見を聞くためである。初日は「ほろよい談話会」と称して交流会を開き、若い方から小土山のお話を伺った。その際、喜多方市の担当の方から蕎麦をご馳走になり、学生もゆで方を教えていただいた。2日目は、小土山集落の山の一つである「立岩山」へ登頂。本来であれば富士山も登る予定であったが、連日のクマによる被害を危惧し中断となった。その後は集落内にあるため池（堤）の散策を行い、9月よりも更に小土山の魅力を肌で感じる調査となった。その後県の職員の方も加わったミニ報告会を行い、今後の調査と12月に行われる「県民討論会」の打ち合わせを行った。

写真7 ほろよい談話会の様子



写真8 立岩山登頂の集合写真

ほろよい談話会で分かったこと

- ・また盆踊りをやりたい
- ・私たちのような学生が集落に来てくれることが嬉しい
- ・集落に今年嫁いでやってきたばかりの方がいた。
- ・集落が本当によくなっていくか不安である。
- ・10月下旬でも集落内はかなり冷える。
- ・集落の方々の仲がよく、団結力がある。



写真9 ほろよい談話会の準備の様子

集落内散策で分かったこと

- ・立岩山は30分ほどで山頂へ登ることができる
- ・集落にある堤（ため池）は全て名前がついており、それぞれに名前の由来や伝説がある。
- ・蛇かごという棚田の地盤が緩まないよう雨水を排出するために石垣を組むなど、景観を守るための工夫がされている。
- ・私たちの行った時期は、クマがよく出没するためにあまり山の方へは行かない。
- ・田んぼの水はけをよくするためにもみがらをまく
- ・中山間地域直接支払で、地元の皆さんで作っている小規模農道。
- ・盆踊りの際に使っていた、出雲神社の境内が整備された。

写真10 整備中の農道（左）と出雲神社（右）



写真11 蛇かご（左）と畑にまくもみがら（右）

4. 地域づくりオープンカフェ（中間報告会）

12月22日、福島市で本事業の中間報告会である「地域づくりオープンカフェ」が開催され、私たちも喜多方市高郷町小土山を担当した代表として参加した。当日は、事業に参加している他大学の発表を順番に聞いていくというポスターセッション形式で、持ち時間は各地区で5分。私たちが今までにしてきた調査の内容や集落の現状、今後していきたいことなどを分かりやすく端的にまとめ発表した。報告会の後、集落の方・学生も交えた質問会を行い、他大学の調査内容から、自分たちにも活かせることを学んだ。他大学の学生はもちろん、他の集落の方々との交流も深まる1日となった。特に、小土山の隣にある西会津の方と今後協力しながら調査を進めていきたいという話になったことはこの日の大きな収穫であった。



写真12 地域づくりオープンカフェ

5. 第3回調査

2月1日～3日の3日間、「冬の小土山の生活を体験する」という目的で3回目の調査を行った。今回の調査には、ゼミ生ではないが4名の1年生が新たに参加。1日目は年度末の報告書及び提案に向けての話し合い、2日目は朝の9時から半日かけ小土山集会所の周辺の雪かきを行い、夜は集会所にて集落の方と夕食を兼ねた交流会を行った。3日目は1年間の調査をまとめ私たちから集落への提案を行い、集落の方と意見を交換した。雪は、集会所の入り口のスロープを塞ぐほど積もっていたが、半日でスロープの部分が現れるまでになった。交流会では、盆踊りで歌われる歌を聞いたり、集会所にしまわれている太鼓を使い、全員で「会津磐梯山」を踊ったりと、3度訪問した中で最も集落の方との距離が縮まったと感ずることが出来た。



写真13 雪かき前（上左）と雪かき後（上右）、1日目の話し合い（下）

冬の小土山について

今年は例年よりも雪が降るのが早い上に量が多いと集落の皆さんがおっしゃっていた。私たちは普段東京に住んでいるため1メートル以上の積雪にはまず出会うことはなく、今回2月に小土山を訪れてその雪の量に非常に驚かされた。9月と10月に集落へ訪問した時の風景の面影はまるでなく、一面の銀世界。10月に上った立岩山も真っ白に染まっており、集落の方が口々に言っていた「冬に是非小土山に来てほしい」と言っていた背景がなんとなく読み取れた。主要な集落の道路は除雪車が通ってくれるため、交通面での不便さは解消されているが、細い道などは集落の方々に協力して除雪しているという。また、東京では雪が降っても翌日かその次の日には解けてしまうことが多いが、小土山ではそうはいかず、連日降り続くことや吹雪く日もあるために、1日かけて雪かきを行っても次の日にはまた振り出しに戻る・・・ということも少なくないそうである。集落の方はもう慣れたとおっしゃっていたけ

れども、とても骨の折れる作業を何十年も続けてこられたのだなと感じた。

私たちが雪かきをしている間、集落のお母さん達がお餅を用意してくださりご馳走になった。冬場は気軽に外に出られないこともあり、家でお餅を食べたり、お茶を飲んだり、時にはお酒を飲んだりしてゆっくり過ごしているようで、特に集落の方にとってお酒は元気の源であると言っていた。

交流会では、今までならば2時間夕食を兼ねて集落の方との交流を深めるだけで終わってしまったのだが、今回は集落の盆踊りで、歌を歌っていた方に歌っていただき、また、最後には全員で「会津磐梯山」を踊った。集落の方が踊るのを見よう見まねで踊っていただけであったけれども、集落の方たちがとても楽しそうに踊っているのを見て、盆踊りをやっていた頃もこのように楽しく過ごしていたのではないかと感じたし、集落の方との一体感が生まれたような気がした。

冬の小土山に訪問して気付いたのは、除雪が大変なのだということではなく、その環境の中で集落の皆さんで協力して暮らしているのだなということである。それは、第1回目の調査から感じていたことであったが、降雪の厳しい冬に訪れたことで、より強く感じる事が出来た。

写真14 集合写真



Ⅲ 今後に向けて

これまで述べてきたように、私たちは7月から計4回集落へ訪問し、小土山の活性化に向けてのお手伝いをしてきた。約1年の調査を終えて私たちが今後に向けて行っていきたいことを大きく4つに分け、これから述べていきたいと思う。

1. 盆踊りの復活

30年程前まで出雲神社にて行われていた盆踊りは現在人手が足りず行われていない。しかし、集落の方々はやりたくないのではなく、「できない」ということを述べていた。要因は前述にもあるように、人手不足や高齢化、お囃子の担い手の不足、若者が外に出ていて継続の難しさが挙げられる。しかし、集落の方々は盆踊りの復活に関しては非常に前向きであり、集落内の調査報告会でも非常に強い関心を示していた。学生の発表中に集落の方同士で話し合う場面も見受けられ、これから盆踊りの復活を本格的に進める際には、とても良い話し合いができるのではないかと感じた。また、以前盆踊りが行われていた出雲神社の掃除は現在も行われており、盆踊りを復活する際の小さな準備はできている。

次に小土山の盆踊りの復活に向け、学生が担う役割についてである。集落の方が終始おっしゃっていたことは「人手不足」で、他の集落と合同で復活した方がいいのではという意見と、自分たち（小土山集落）の力のみで復活をしたいという意見とが対立しており、これからの話し合いで私たち学生が意見の調整をしていく必要がある。また、櫓や音響、照明などの道具の収集方法についても盆踊り復活が決まり次第決めていかななくてはならない。集落の方々のために学生がきっかけを提供し、集落の方々中心の盆踊りを復活できるようにサポートをこれからも続けていきたい。

学生はあくまで集落の方だけではできない部分を補う役割を担い、この先何年も続けられる盆踊りにできるよう集落の方としっかりと関係を築いていくべきであり、集落の方の「盆踊りをやりたい」という気持ちを全面的に支えていく準備が必要である。



写真15 盆踊り開催場所である出雲神社

2. 小土山の魅力発信

私たちは、小土山には「景観」と「食」という魅力が多いと感じ、この二つの魅力をぜひ集落内だけでなく色々な方に知ってほしいと考え、小土山の魅力を発信していくことを提案としてあげたい。

まず、小土山の「景観」についてである。小土山は山間部の集落である。そのため、中山間地域のもつ災害を防ぎ、水資源を慣用する国土保全機能や、大気の浄化、生物・生態系の保全といった環境保全機能、さらには、美しい自然・歴史・文化に根ざした景観などの公益的価値は大きく評価されつつある。国土の発展を図るためには、中山間地域の持つ機能は「なくてはならない存在」である事をわれわれは実感した。ここからは立岩山、富士山、棚田、堤、山菜などを評価した。もうひとつは集落が高い高度に位置するという事。これにより、集落のいたるところから磐梯山が眺望できる。さらには早朝に雲海を望めることも評価に値するだろう。

また、江戸時代には喜多方から新潟県阿賀町・津川に通じる道路があり、「越後裏街道」と呼ばれ、人の往来とともに越後からは塩・海産物が、会津からは米、炭、米沢からの紅花などが運ばれていた。その順路に「陣ヶ峰通り」が存在した。山間地域とはいえ、このような歴史的背景が存在することは大きく評価できるだろう。ここからは小土山の立派な住宅、魅力的な行事、豊富な食に関して評価した。

以下に小土山集落の景観について概要や感想を記している。

棚田

- ・棚田オーナー制度（揚津という集落では行っている）
- ・ライナープレート：雨水などをためておき、沢や川に流す、棚田の地すべりを防止するための縦穴。30mくらい掘ってあり、ペントナイトは粘土質。集まった水は冷たいから田んぼには使えない。
- ・蛇籠（じゃかご）→棚田の地すべりを防ぐために棚田の段差に大きな石を組んで、医師の間から水が抜けるようにするもの。役所の産業課に電話をして要請する。また、災害時に役場の産業課の災害の認定を受けるとじゃかごを作るのに補助金が出る。
- ・トラクターが入りやすいように道路整備を行っている。トラクターが畑に入って行く道が急な坂になっていて危険なためコンクリートで舗装している。

<その他農業>

- ・もみがら→土壌改良（水はけをよくする）昔は燃やして使っていたが燃やさない方が効果が高い。糞葉としても利用できる。



棚田においても、地域の土地をうまく利用した形のあらわれであり、平地では見ることでできないものである。平地でみる田んぼに見慣れている側からは非常にきれいで美しく、一つの風景として目に焼き付いている。

●雲海

山で見られる雲海は、山間部などでの放射冷却によって霧、層雲が広域に発生する自然現象による。雲の海に山々が島のように浮かんでいるように見えることから雲海と呼ばれる。

朝、少し霧がかかっている中、外に出て棚田や立岩山を見ている時、ふと遠くを見た。最初は雲海であると分からなかったため、とてもきれいな景色として認識し、写真を撮っていた。後に、写真を見返していた時に雲海が映っていることに気づき、とても驚いた。雲海が見える場所はなかなかないものだと思う。雲海が見えるということに価値を見出したいと感じた。



●立岩山

小土山の立岩山の風景は、都会では見ることのできない自慢できるものである。春夏秋冬を肌で感じることができる。頂上には雷を受け、幹の割れた樹木や、頂上からは一面に集落を見渡すことができ、磐梯山を眺めることができる。山道を歩いていても、様々なキノコや植物が生えており、熊が生息している痕跡など自然を感じると共に、趣のある立岩山という印象が強く残っている。山道を歩いていて気付いたことは道のわかりにくさや、歩きにくさ、頂上に目の前に見える山は何の山なのかなどの案内図などがあると初めて来た人にもわかりやすいのではないかと考える。



●大きな家・曲り家

煙を通すための屋根が特徴的である。昔、養蚕やその他の産業で集落自体がお金を持っていたのではないかとされる。また人々の憩いの場になる、という点も評価できると考える。

曲り家は小土山集落だけのものではないが、どの地域でも見られる家の形ではない。また、曲がり家の中で、馬や牛が飼われていたということは珍しい。昔、人と馬・牛が同じ屋根の下で暮らしていたことが興味深く、評価できる点であると考えられる。



● 小土山茶屋

陣ヶ峰峠に存在した茶屋。終戦前後に姿を消した。長い道中をし、峠を登りきると茶屋があり、人々はそこで一休みをした。軽食や駄菓子、簡単な日用雑貨などを売っており、人々の交流の場でもあった。

次に小土山の「食」についてである。

小土山の食		
	時間	概要
えご	昔～現在	えごのり(海藻)を固めたもの。冠婚葬祭で食卓に出される。
松葉餅	昔	松の木の香りを付けたお餅。
蕎麦団子	昔	そば粉で作ったお団子のこと。
こづゆ	昔～現在	お吸い物のようなもの。冠婚葬祭で食卓に出される。
じゅんさい	昔	スイレン科の多年生水草。堤の中でも見られた。
大豆	昔～現在	畑で作られていた。味噌作りに使われた。
味噌	昔～現在	各家庭で味噌樽を使って味噌作りがされていた。
芋床	昔～現在	ジャガイモをぬか床と同じようにして漬物などを作っている。
うど	昔～現在	山菜
ざるなし	昔	お酒に浸けて使用された。
マムシ	昔	お酒に浸けて使用された。
タラノメ	昔～現在	山菜
コシアブラ	昔～現在	山菜
蕎麦	昔～現在	昔は救荒作物、今はグルメ?
ちまき	昔～現在	米を笹で包んで茹でたもの。節句の供え物とされる。
笹団子	昔～現在	餡入りのヨモギ団子を笹でくるんだもの。節句の供え物ともされる。

(小土山集落でのヒアリングより)

上の表からも読み取れるように、小土山集落の食文化の昔と現在の違いで大きく変わったものはないように思える。しかし、これまでの間、無くなっていくものはあっても増えているものは特にない。そのため、これから地域を維持していくためにも、地域特有の食べ物を継承して大切にしていくためにも新しい工夫をしていくことが重要なのではないかと考える。

◆学生が「食」で注目していきたいもの◆

えご → 学生は誰もその名前を聞いたことがなく、食べたこともなかった。実際に住民の方に作って頂いたところ、見た目は羊羹のようなもので、味はところてんと似ていた。酢味噌や醤油などつけるものを変えることで様々な食べ方ができると思った。



こづゆ → 初めて食べたが、たくさんの食材が入っていて贅沢で健康的な食材であると思った。集落の方に作って頂いた際には2杯お替わりをしてしまうほど美味しかった。



芋床 → 芋床で作られたきゅうりとなすの漬物がとても美味しく、学生の中で非常に評判が良かった。芋の普段は要らないとされる部分を有効に活用することができ、珍しいものでもあると感じた。



小土山魅力発信を具体的にどのように行っていくのかということであるが、まずひとつとして学祭の活用というものを提案した。何をするのかというと、地域の方々から小土山でよく食べられている、例えば、こづゆ、えご等といったものの作り方を教えて頂き、学祭出店用に地元の方々と試行錯誤をしながらアレンジをしていくというものである。東京に住む学生たちや学祭に遊びに来る人がそのような食に触れることによって、食べる側としては小土山の食に関する魅力を感じ、作り手としては、いつも当たり前のように食べていたものが実は価値のあるものであるということに気付くきっかけになる。

次に、小土山の皆さんが選ぶNo.1の景観の写真を提供して頂いて、学祭での食の販売と共にスライドショーでその写真を流すことにより、例えば、野菜売り場でその野菜がどこで誰が作ったのかということが明記されていることでその野菜に信頼感が生まれるという魅力と同じように、「食」と「写真」を一緒に提供することによって魅力がより伝わるのではないかと考える。

また、景観というものをより良くしていくために、耕作放棄地の整備というものを新たに提案したい。集落内を散策した際に棚田や堤など、景観が整備されているところがある一方で、道路のガードレールにまで雑草や蔓が迫ってきていたり、本来なら田んぼであるところに、雑草や笹が生い茂っている風景も目にした。しかし、その耕作放棄地を整備するほど人材

が足りていないというのが現状である。そこで、学祭などを利用して人材を募集し、小土山の景観をより美しいものにするというのはどうだろうか。

3. 堤マップの作成

私が堤を小土山集落の魅力ではないかと感じたのは、全ての堤に名前がつけられているのが面白いと思ったからである。「堤」の第一印象はただのため池で、農山村地域にはよくあるものなのかなと思ったが、集落の方達のお話を聞いた時に全て堤には名前がついていて集落内には多くの堤が存在していることを知った。集落の方達も堤の名前を殆ど把握していて、堤が小土山にとって、とても価値のあるものなのだなと感じた。また、高郷町の支所の方からの情報により、堤は歴史的にも古くから存在していることが分かり、ますます私はこの小土山の「堤」を多くの人に魅力を知ってほしいと感じた。

10月に行った第2回目の調査で、堤には個人所有と共同所有とあり、水路も細かく分けられていて田んぼに水を入れるシステムがきちんと機能するような工夫や、堤に生息している生き物、都内ではなかなか手に入ることの難しい植物などが群生していたり、堤の由来や伝説などそれぞれの堤でこんなに違いがあるのかと驚いた。私は東京で生まれ東京で暮らしているため、堤のようなため池はもちろん見たことがなかった。だからこそ、「堤」から水を引くという小土山の土地を活かした仕組みはとても価値があると思う。

第2回目調査の際の報告会でもお話しさせていただいた案であるが、せっかく小土山には多くの堤があるので、立て看板に堤の名前の由来や堤にまつわる伝説などを書き、各堤に置いておくのはいかがでしょうか、ということである。更に「堤マップ」というものを作れば、どこにどの堤があるのかも把握しやすいのではないかと思った。集落に人が来るというきっかけがあれば、小土山集落の魅力を肌で感じる事が出来ると思う。今年度の調査では、全ての堤を把握することが出来なかったため、来年度は足を運べる堤は全て把握し、マップ作りを進めて行きたいと思う。



写真 白鉢堤（左）と新堤（右）

4. 富士山の活用

「富士山」と書いて、「ふじさん」と呼ぶのは、ここを含めて全国で3ヶ所だけである。現在、富士山から立岩山を通り、温泉保養施設ふれあいランド高郷まで抜けられる山道を整備中であり、富士山はその入り口でもあることや、もあれば誰でも登山を楽しめるといったことは魅力的ではないかと考えた。本来であれば10月の第2回調査で富士山に登頂する予定であったのだが、クマ被害が後を絶たず断念したので今年度私たちはまだ富士山に登っていない。そのため、現在富士山に関する情報はまだまだ少ない。

来年度に向けて、「富士山の活用」というテーマですすめていくにあたって私たちが考えていることは、境である西会津との連携、登山道のマップを作る、イベントを開催して人1時間と呼ぶことである。12月の地域づくりオープンカフェで、西会津を調査した宮城教育大の方と名刺を交換したこともあり、ぜひ来年度は協力をして、「富士山」という共通の魅力を活かして活性化していきたいと考える。



写真 立岩山の看板（左）と富士山の登山口（右）

IV おわりに

事業に参加してみようと思ったきっかけは、「まちづくり」という視点から福島を元気にしていきたいという気持ちからであった、しかし、実際に1年参加してみて、毎回集落の方が温かく迎え入れてくれ、私たち学生の意見を真剣に受け止めてくださったことで、逆に私たちが元気をいただいたように感じた。また、毎回交流会の際は、美味しいお料理を出していただいたことはもちろんであるけれども、朝や帰る際にも様子を見に来てくださって、差し入れまでいただき本当に感謝してもしつくせないことばかりである。

集落に入る前は、前述のとおり私たちが集落を助けたい、という気持ちが先行してしまっていたが、調査を始め、集落の方たちが本当に楽しそうに盆踊りの思い出を話していたり、私たちの撮った写真にも非常に興味を示してくださったりした時、集落の方と一緒に頑張っていきたいと感じるようになった。だからこそ、2月の訪問の際に皆さんが「お帰りなさい」と言って迎えてくれたときは本当に感動して、集落の方との距離が縮まったのだなと実感した

始めは非常に曖昧で具体性のない提案だったものが、調査を進めたり、喜多方市の役員の方や支援員の方のご協力もあり、段々と現実味のある提案になっていけたことは本当によかったと思う。学生としても、1年をかけて一つのテーマについてこんなにじっくりと話し合いを進めていく機会はなかなかなかったもので、大きな成長に繋がったのではないかと感じる。

2月の調査における交流会の終わりに全員で「会津磐梯山」を踊ったことや、翌日の報告会で盆踊りの復活について報告した際に、集落の方が感動して涙を流してくださったのを見た時、来年度、盆踊り復活のために一丸となって、一層頑張っていきたいと思った。

今年1年では、小土山集落の魅力を感じることで終わってしまったため、私たちは引き続き来年度も小土山集落に関わっていき、学んだことを活かして小土山を盛り上げていきたいと思う。

謝辞

本報告書を提出するにあたり、調査にご協力・尽力してくださった喜多方市高郷町小土山行政区長の渡部一男さんをはじめ、集落の皆様には大変お世話になりました。

また、喜多方市総合政策部企画政策課過疎地域集落対策室長の佐藤義弘さん、福島県庁地域振興課の千代多実子さんをはじめ、喜多方市および福島県の職員のみなさまにも、サポートしていただき感謝しております。

この度の調査から報告書作成に至るまで、本当に多くの皆様にご協力いただいたこと改めて御礼を申し上げ、私たちの報告書とさせていただきます。

これは、「大学生の力を活用した集落活性化調査委託事業」における小土山集落のみなさんにご協力していただく法政大学現代福祉学部岡崎ゼミ生によるアンケートです。
各戸代表者1名の方が、来村する9月3日までにご記入お願い致します。
調査は4日・回収は5日までに学生と区長さんが行いますので、
お忙しい中とは思いますがご協力お願い致します。

問1 年齢はおいくつですか。

- ①10代
- ②20代
- ③30代
- ④40代
- ⑤50代
- ⑥60代
- ⑦70代
- ⑧80歳以上

問2 この集落到何年間、住まわれていますか。

問3 性別はどちらですか。

問4 お仕事は何ですか。

問5 集落の会合（話し合い）に参加していますか。

- ①ほとんど参加する
- ②時々参加する
- ③ほとんど参加しない
- ④昔は参加したが今は参加していない
- ⑤一度も参加したことがない
- ⑥会合が行われていない

問6 集落のお祭りや行事（新陸塊、レクリエーション等）に参加していますか。

- ①ほとんど参加する
- ②時々参加する
- ③ほとんど参加しない
- ④昔は参加したが今は参加していない
- ⑤一度も参加したことがない

問7 集落の清掃活動等の共同作業（草刈りや共同の農作業など）に参加しますか。①ほとんど参加する ②時々参加する ③ほとんど参加しない ④昔は参加したが今は参加していない ⑤一度も参加したことがない

問8 問6、問7の集落のお祭りや行事、共同作業に「③ほとんど参加しない」、「④昔

は参加したが今は参加していない」、「⑤一度も参加したことがない」と答えた方にお聞きします。

集落の活動や共同作業に参加しない理由は何ですか。

①仕事で忙しい ②集落の活動に興味が無い ③家族が参加する ④年をとって体がきつい ⑤その他

問9 今後、小土山集落の活動は維持できると思いますか。

①今のまま維持できる ②維持できない ③わからない

問10 問9で「②維持できない」と答えた方にお伺いします。

今後、集落の活動が維持できなくなった場合、どうしたらいいと思いますか。

問11 今後、どのような地域活動に積極的に取り組んでみたいですか。次のうちから3つまで選んで記入してください。

- ①集落内の祭りやイベント
- ②体験型交流や観光等のイベント
- ③集落内の特産品づくり
- ④ボランティア活動
- ⑤草刈り等の共同作業
- ⑥子育て支援活動
- ⑦防災活動
- ⑧他の集落との交流
- ⑨わからない

問12 (移動手段) 普段の用事で集落外へ出かける時の「目的」、「頻度」、「主な移動手段」を教えてください。また、ひと月にどのくらい交通費用がかかっていますか。

(例：目的→仕事、頻度→月に10日、主な移動手段→車、交通費→5000円)

問 13 日頃、食料品を主にどこで買いますか。

問 14 日頃、日用品（食料品以外）を主にどこで買いますか。

問 15 かかりつけの病院は、どこにありますか。

- ①集落内 ②市町村内 ③その他の市町村 ④巡回治療 ⑤特にかかっていない

問 16 日頃、インターネットを利用していますか。また利用したいと思いませんか。

通信環境が整備されるなら何に利用したいと考えていますか。

- ①既に活用しており、これからも利用したい
②今は活用していないが、通信環境が整備されるのなら利用したい
③利用したいとは思わない
④わからない

問 17 地震等に備えた対策をしていますか。該当するものを全て○をつけてください。

- ①食料等の備蓄
②避難時の持ち出し備品の備え
③避難路・避難場所の転倒対策
④家の耐震化
⑤家具の固定等の転倒対策
⑥避難訓練への参加
⑦研修会・講習会への参加
⑧自主防災組織の活動に参加
⑨家族等と緊急時の連絡方法の話し合い
⑩特にしていない

問 18 日々の暮らしの中で、困っていることや不安に思っていることがあったら教えてください。いくつでも構いません。

問 19 小土山集落にこれからも住みたいですか。

- ①住みたい
- ②住みたいが、集落以外へ転居せざるを得ない
- ③住みたくない
- ④わからない

問 20 問 19 で住みたいを選んだ方にお聞きします。住みたい理由は何ですか。

問 21 問 19 で「住みたいが集落外へ転居せざるを得ない」選んだ方にお聞きします。
その理由は何ですか。

問 22 家族に将来も引き続きこの集落に住んでほしいと思いますか。

- ①そう思う
- ②そう思わない
- ③わからない

問 23 集落の外に出て行っている家族や親類に戻ってきてほしいと思いますか。

- ①そう思う
- ②そう思わない
- ③わからない

問 24 あと毎月いくらあれば経済的に満足できると思いますか。

問 25 小土山集落の「誇り」や「自慢」は何ですか。

問26 小土山にある、これからの産業や活性化に活用できる資源（特産品やいいもの）がありましたらご記入ください。

問27 集落で生活する上で、お気づきの点やご意見等があればお聞かせください。

お忙しい中アンケートにご協力頂きありがとうございます。
アンケートの内容は、本調査に関係すること以外には使用いたしません。
何か不明な点や、気付いた点がありましたら下記にご連絡ください。

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科

岡崎昌之ゼミ3年

代表者：榊 絵美

TEL:080-6559-4494

E-MAIL:colonel.xtc@gmail.com